

理事会だより

9月17日、神奈川中小企業センタービルで、理事会が開催された。

まず、辻総務委員長から8月20日に開催された総務委員会でのWeb会議の実証実験の結果が報告され、組合員へのオンライン会議の普及に向けての議論がなされ、希望者には無償のZoom研修を受講してもらうことが決定した。

コロナ禍の中での主な事業の見直しとして「新年賀詞交歓会」の開催の是非が議論されたが、次回理事会で決定することとした。

かながわ鉄構協ニュースのコラムについて、コロナ禍により難しくなっている営業活動の一助にさせていただくため、「賛助会員だより」を復活させることが決定した。



金属アーク溶接等作業が特化物取扱作業に

厚生労働省では、「溶接ヒューム」について、労働者に神経障害等の健康障害を及ぼすおそれがあることが明らかになったことから、労働安全衛生法施行令、特定化学物質障害予防規則(特化則)等を改正し、新たな告示を制定しました。改正政省令・告示は、**令和3年4月1日から施行・適用**します。



主な改正点は次の通りです。

1 特定化学物質作業主任者の選任(特化則第27条、第28条)

「特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習」を修了した者のうちから作業主任者を選任し、次の職務を行わせることが必要です。(令和4年3月31日まで経過措置あり)

- ①作業に従事する労働者が対象物に汚染され、吸入しないように、**作業の方法を決定し、労働者を指揮**すること
- ②全体換気装置その他労働者が健康障害を受けることを**予防するための装置を1か月を超えない期間ごとに点検**すること
- ③**保護具の使用状況を監視**すること

2 特定化学物質健康診断の実施等(特化則第39条～第42条)

金属アーク溶接等作業に常時従事する労働者などに対して、健康診断を行うことが必要です。

改正内容に関する通達・資料はこちら↓

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_12725.html

Zoom研修会の受講者を募集します

新型コロナウイルスの影響により、従来の形での会議や打ち合わせの開催が難しくなっています。このような状況下で、オンラインでの会議の開催が主流になりつつあり、ミーティングツール「Zoom」が多く利用されています。

全構協においても、「Zoom」を利用したWeb会議を実施していく方針が表明されました。そこで、県中小企業団体中央会のパソコン研修講師によるパソコン講習事業を活用させていただき、総務委員会と青年部会の共催にて、Zoom研修会を企画いたしました。受講者の費用負担はありません。

この機会に受講して、Zoomのスキルを習得し、オンライン会議に参加してみませんか。詳細や申込方法は、9月28日にFAXにてご連絡いたしました。



青柳厚志理事(株)青柳製作所が辞任されました

令和2年9月8日付けで、一身上の都合により辞任したい旨の届が理事長あてに提出されました。

平成26年から28年まで2年間、青年部会長としてご活躍されるとともに、平成26年から2年間ずつ、理事、監事、理事としてご尽力いただき、役員として7年目に入ったところでした。これまでの組合へのご貢献に対し感謝申し上げます。

なお、定款上問題がないため、後任は置かず、残った理事17名の体制で取り組んでいきます。

社名変更のお知らせ

「つくし工業寒川工場株式会社」が、令和2年8月24日付けで、「株式会社ビーエルビルド」に変更になりました。

住所などは変わらず、代表者も関秀雄氏で変わりません。

神奈川県最低賃金の改正のお知らせ

令和2年10月1日から、時間額1,012円(1円引き上げ)となりました。

賛助会員の皆様に朗報です

当ニュースにおきまして、平成26年6月号から平成29年4月号まで、随時「賛助会員だより」を掲載し、賛助会員の皆様のPRにご活用いただきました。

掲載が一巡したところで、「賛助会員だより」をしばらくお休みしておりましたが、3年以上経ちましたので、ご担当者が替わったり、新商品が出たりして、発信されたい情報が多々あると思われま

す。また、令和2年の年が明けて以来のコロナ禍により、例年行っておりました5月の総会や11月の合同支部会が中止となり、併せて行っていた交流会が開催できず、令和3年の新年賀詞交歓会の開催も危うい状況です。

つきましては、賛助会員の皆様の営業活動の一助にさせていただければと思

い、「賛助会員だより」を復活させていただくこととなりましたので、掲載につきましてご協力の程よろしくお願



い申し上げます。お申し出いただいた順に、令和2年12月号から、順次掲載させていただきます。詳細は9月18日にFAXにてご連絡いたしました。

青年部の横顔

No. 32



三葉鉄工(株)
総務課 蜂谷 洋輔
川崎市幸区南加瀬3-4-1
TEL 044-599-0923
FAX 044-588-2863
E-mail santetsu@ec3.technowave.ne.jp

弊社は、川崎市幸区に昭和55年に設立し、鉄骨製作から現場取付まで行っております。近年は主に耐震補強・改修・金物工事全般を請け負っております。

私は入社6年目で、主な仕事は経理業務、製品検査、関連する提出書類の作成等ですが、少数精鋭のため、工場での加工や現場での作業も行っております。特に製品検査業務では、「製品は間違っているもの」という考え方で、細部まで確認し「出荷前の最後の砦」という意識をもって行っております。

青年部の勉強会や懇親会を通じ、色々な経験談や知識を諸先輩方々にご教授いただきながら積極的に交流を深め、スキルアップしていきたいと思っております。

趣味は実家が釣道具屋を営んでいるため、幼少期から様々な魚釣りをしてきました。現在は、主に千葉県にある亀山湖でブラックバス釣りをしております。また、あまりうまくはないですが、夫婦でゴルフも楽しんでおります。

今後も仕事とプライベートを両立させ、充実した日々を送りたいと思っております。



関東支部1都9県 2019年度実質年間鉄骨生産高調査結果報告

関東支部運営委員会が7月に支部構成組合に実施した実質年間鉄骨生産高調査結果が、第2回運営委員会において発表された。この調査は、「業界環境の把握」の一環として16年度から毎年行い、今回が5回目である。関東甲信越の組合加入企業は587(590)社で年間鉄骨推定生産高は128(124)万トン1社平均 2,188(2,106)トンと昨年より微増しており、引き続き稼働は旺盛であったことが窺える。回答率は神奈川が5年連続の100%で、他2県で100%であったが、60%程度の県もあり、各県の取組状況に温度差がある。※()内は昨年度数値。未回答分はグレード別平均値を考慮し算出。

各県別の生産高では新潟、長野、千葉の順に多く、神奈川は山梨に次いで少なかった。昨年度との比較では千葉が57%、東京が26%、群馬が12%増加した一方、長野が20%、山梨が10%減少した。1社平均では長野、千葉、東京の順に多く、神奈川が最低であった。

	神奈川			1都9県		
	社数	生産高	平均	社数	生産高	平均
S	0			2	84,404	42,202
H	3	22,480	7,493	61	457,015	7,492
M	23	22,453	976	222	525,323	2,366
R	8	2,055	257	151	101,767	674
J	0			5	336	67
他	12	1,485	124	146	115,550	791
計	46	48,473	1,054	587	1,284,395	2,188

1都9県全体のグレード別生産量ではMが41%、Hが36%、未認定が9%、Rが8%、Sが7%であった。1社平均ではHはMの約3.2(3.4)倍、MはRの約3.5(3.1)倍仕事をこなしている。神奈川のMの1社平均生産高は従来同様1都9県全体の半分以下と少ない。

2019年度の建築着工面積から割り出した鉄骨需要量(上表中のB)は177万トンで3割弱の48万トンが域外・組合未加入企業に流出している計算になる。県別の需要量に対する生産高比較では新潟は3.5倍、長野は2.6倍となっているが、神奈川は2割弱で、着工面積需要量からは7割を占める東京・埼玉・神奈川・千葉の首都圏は実際には25(28)%しか受注しきれていない状況にある。

都県	社数	生産高A	平均	B	A/B
茨城	63	102,038	1,620	153,552	66%
栃木	55	130,546	2,374	85,902	152%
群馬	65	146,784	2,258	94,861	155%
埼玉	53	86,508	1,632	288,562	30%
千葉	61	177,354	2,907	208,707	85%
東京	49	137,405	2,804	494,549	28%
神奈川	46	48,473	1,054	274,290	18%
新潟	97	214,450	2,211	60,216	356%
山梨	31	34,076	1,099	30,244	113%
長野	67	206,761	3,086	79,347	261%
計	587	1,284,395	2,188	1,770,230	73%